

聖書:使徒の働き2章36~42節

説教:賜物として聖霊を受けます

はじめに

さきほど子どもメッセージでも触れたように、今朝はペンテコステ礼拝をともにしております。教会に通い始めた頃、このペンテコステということばを私は初めて聞いたのですが、なんのことかわからない。周りの人はみな知っているような顔をしていて、ちょっと肩身の狭い思いをした記憶があります。そこで今日は、ペンテコステとはなにか。それが私たちとどんな関係があるのか、ともにみことばに聞きながら神の恵みに近づいていきたいと思えます。

## 1 ペテロ

### 1) 五旬節の日

ペンテコステと呼ばれる日に一体何が起きたのか、簡単に振り返ります。1~4節を読みます。

「五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。」

ここに「五旬節の日になって」とあります。上旬中旬というように「旬」は十日間の意味ですから五旬節とは五十日ということになる。この五旬節と訳してある元々のことばがペンテコステと発音していたことが起源です。ではいつから数えて五十日目なのか。申命記16章16節にこうあります。「あなたのうちの男子はみな、年に三度、種を入れないパンの祭り、七週の祭り、仮庵の祭りのときに、あなたの神、【主】の選ぶ場所で、御前に出なければならぬ。」種を入れないパンの祭り、これは過越の祭りのこと。その祭りから七週間たって「七週の祭り」をする。つまり四十九日経過した次の日がちょうど五十日目となりますが、それがペンテコステとなります。

そのペンテコステの日には人々が驚くような不思議なことが起きて、集まってきた人たちは、これは酒に酔っているのだろうと言う者さえ現れた。それでペテロが人々の前に出て説教をした。それが今日の箇所背景です。

### 2) よみがえりの証人として

ペテロの説教は14節から始まっていますが、読むと非常に力強い。わずか五十日前、彼が何をしたのかを思い起こすと、あまりの変わりようです。五十日前の過越の祭りの夜、イエスは逮捕されてすぐに裁判にかけられていきます。そのときペテロは裁判の様子を伺おうと身分を隠して傍聴席に座る。ところが近くにいた者にイエスの仲間ではないかと疑われると、ペテロはあわてて「いや、違う」と三度も否定する。そうやって、イエスが予告されたとおりに、ペテロはイエスを捨てていった。そういう人がこういう説教をし、それを聞いた人たちの中から三千人が救われていった。驚きます。

ペテロがこんなにも変えられたのは理由があって、32節でこう言っています。「このイエスを、神はよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」このあたりの事情についてはヨハネの福音書に詳しく書かれています。ガリラヤ湖のほとりでよみがえられた主に出会ったとき、イエスは弱いペテロを力づけ、「わたしの羊を飼いなさい」と言って新しい使命を与えて送り出してくれた。それでペテロは大きく変えられていく。

## 2 イエス

### 1) 約束された聖霊を御父から受けて

ではそのペテロはが何を語ったのか、特に聖霊に焦点を当てて見ていきます。33節。「ですから、神の右に上げられたイエスが、約束された聖霊を御父から受けて、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いでくださったのです。」

ここで二つのことを確認します。一つ目は「約束された聖霊」という部分です。約束されたということですから、以前どこかでこのような約束をされていたはずで、確かにルカの福音書24章49節にありました。「見よ。わたしは、わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」聖霊は思いがけなく突然に与えられたのではなく、以前からイエスの約束しておられたことだった。それが一つ目。

二つ目。聖霊はどこから来たのか。「聖霊を御父から受けて」とあります。聖霊は父なる神のみもとから来られた。これを覚えて下さい。どうしてそ

んなに大切なことなのかと思うかもしれませんが、これからその理由を説明します。

2) 主がよみがえられたことをどうやって知るのか  
ペテロはこう言いました。「このイエスを、神はよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」ペテロを始め、使徒たちは実際によみがえられた主に出会った。それはよい。では私たちはどうでしょうか。使徒たちは見たかもしれませんが、私たちは見ることはできません。最後まで主がよみがえられたことを信じられなかったトマスは、よみがえられた主から、「見ないで信じる人は幸いです」と言われました。なので、私たちはトマスのように頑なになって信じないと言うのではなく、聖書に書かれているみことばどおりに、主のよみがえりを信じるのだ、そんなふうを考えていたのではないのでしょうか。もちろん素直に信じられるのであればそれが一番です。でもやっぱり私たちは科学の時代に生きていますから、信じろと言われても、トマスのように釘の跡を見るまでは信じない、そんなふうには言いたくなる。あるいは、そんなことを思う方が不信仰ということでしょうか。

3) もし主が天に上げられなかったなら  
実は、神も私たちがイエスのよみがえりを信じるのはむずかしいということによくご存じです。そのために信じられるようにと、ある一つの「仕掛け」をこしらえてくださっている。それが今日の話のポイントになります。

そこでこんなことを考えます。もしも仮に主がよみがえられなかったならどうなるか。そういう前提で話しを進めて、それでどんな結論になるか。そう考えてみる。主がよみがえられないのですから、天に上げられることはありません。天に上げられないのですから、父なる神の右に座ることはありません。そこまではわかりますね。次が大切です。先ほど、聖霊はどこから来られたのかと言いました。聖霊はどこにでもおられるのではない。父のみもとにおられます。また勝手に好きなところに聖霊が飛び出していきようなこともありません。イエスはなんと行っていましたか。繰り返します。「わたしは、わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。」聖霊はイエスの手によって私たちのところに送られてくる。そういう仕組みになっている。どうしてこんなに複雑な手順を踏むのかと思うでしょう。

わかりやすく例えましょう。柿の木においしいそうな柿の実がなっているのが見えたとします。そこを通った人が、おいしそうだなと思ってそれを見上げる。けれども、手が届きませんから食べることができない。そこへイエスが現れて、あの柿の実を取って上げましょうと言って、はしごをかけて木を上り、柿の実を取って、私たちとのことへ落としてくれた。それで初めて人はおいしい柿の実を食べることができたとする。この場合、柿の実が聖霊です。つまりイエスが父なる神のところへ上がることがなかったなら、絶対に聖霊は私たちに注がれない。イエスがよみがえられなかったなら、私たちが聖霊を手にするにはない。そういうことになる。ペンテコステの朝、人々に聖霊が降ったということは、ただ驚くべきことが起きたという話ではない。主がよみがえられて、天に上り、父なる神の右におられることの、疑いのない証拠がこうやって示されたことを表していたのです。これが先ほど言った「仕掛け」です。

### 3 聖霊を受ける

#### 1) 悔い改めと罪の赦し

さて、ここまで聞いてそうなのかと思われたかもしれませんが、疑問も湧いてくる。二千年前、人々はこうやって聖霊をいただいたかも知れないが、私はどうなのか。本当に聖霊をいただいているのだろうか。そこで悩んでおられる方が沢山おられる。そこで次にこのことを取り上げます。

まず聖書にどう書いてあるか。38節。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」

聖霊は、罪を悔い改めて、イエスの名によってバプテスマを受けた人たちに与えられ、主が召した人であるならばだれにでも与えられる。ここでひっかかる。私は主に召されているのだろうか。しかし、まず言えることは、「私は罪人です。私の罪のために主は十字架におかかりになりました。」もしそのように告白するのであれば、その人は聖霊をいただいている。主が召して下さったということです。そもそも、私たちが罪を告白し、イエスは私の主ですと告白すること自体、それは聖霊の働きであるとさえ言われる。

#### 2) 教えを守る、交わり、パン裂き

それでもまだ確信が持てない方もいるでしょう。そういう方は、自分がどのように変わっていったかを振り返ればよい。皆さんは全員、かつて教

会には行ったことがない人たちです。それが今毎週教会に来る。どうしてですか。いつも言いますが、「礼拝に来てください」と私が言わなくても、皆さんがぞろぞろ日曜日の朝集まってくる。これは奇跡だと思う。日曜日の午前中、聖書のことばに耳を傾け、真剣にみことばをとらえていく。どうしてそんなことが起きたのか。今日から昼食が再開されますが、コロナのことが起きて交わりがなくなることを非常に悲しんだ。どうして悲しむのか。聖書に書いてある。聖霊をいただいた人たちが何をしたのか。42節。「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。」

皆さんは、だれに言われなくても教会に集まり、主を礼拝し、交わりをし、聖餐にあずかっています。どうしてですか。聖霊が与えられているからです。聖霊が与えられているからこれができる。主がよみがえられたことがわからないと言いながら、実は皆さん自身が生活しながら、いつの間にか主がよみがえられたことを証ししておられたのです。

聖霊をいただくというのは、空から降ってきたのをいただくというような受け身の話しではなかった。この罪の世にありながら、知らない間によみがえられた主を証ししていた。そのようにして聖霊が働いておられたのです。

主の恵みのすばらしさに感謝します。